新潟医福誌6（1）154・157

医療福祉基礎科目群

矢谷令子

キーワード：本大学の理念、QOLサポーター、コア・カリキュラム
保健医療福祉連携教育

Basic core-unit with medical・social subjects

Reiko Yatani

Keyword : The university Primciple, QOL supportor, Core・curriculum Collaborated Education with Health Professions

要旨

平成17年度において迎える本大学院完成年度に備え、平成14年度後半より「カリキュラム編成改定」作業が行われた。改定作業は「将来計画機構・合同カリキュラム検討部会」と称される中のコア・カリキュラム検討委員会において行われた一連の作業とのその目的について説明を加えたものである。

主たる作業は本大学の理念の打ち出しを明確に反映するコア・カリキュラムの作成である。同時に学生諸氏に伝承される本大学の理念の遂行に教職員一同、共に理解と実践を深めることを願った。

1．本科目群の位置づけと経緯

1）名称の意図と位置づけ

夕刻になると本学の図書館の“五角錐ルーフ”に灯りがともる。この灯には少しでも多くの皆様に本学の存在をお伝えしたいとの初代である現学長高橋榮明先生の願いがこめられている。

五角錐は開学当初の5学科を象徴するものであったが、此れにこだわることなくその後、学科は増設されている。保健、医療、福祉に及ぶ分野に活躍するすぐれた専門職員を世に送り出すためである。

本学のカリキュラムに当初より設けられた「医療福祉基礎科目群」は“コア・カリキュラム”に相応する科目群として意図され、位置づけられてきた。それぞれ異なる専門専攻ではあっても縦割教育ではなく医療、福祉の連携する横割教育方針がその基本に置かれたものであった。

故に医療福祉基礎科目群という本名称には、各部、各学科の学生が大学の理念や目的を共通の精神として受け止め共に学びあいコアの特性を一身に受けて対象者や社会に役立つように、との夢がこめられている。夢とは理念の遂行であり、本学にとっては、「痛み障害を持つ人々のQOLを支援する力強い専門職員の育成」である。学生諸氏にとっては「対象者個人のQOLサポーターとして相互に連携し活躍することを旨として巣立つ」ことである。

2）17年度向けカリキュラム改定作業

平成14年度後半に入り、大学は完成年度にあたる平成17年度に向け「将来計画機構・合同カリキュラム検討部会」なるものを立ち上げ

合同カリキュラム検討部会の下に；

Ⅰ．学科別カリキュラム検討委員会
Ⅱ．1）教養教育検討委員会Ⅰ
　　2）教養教育検討委員会Ⅱ

を置いた。

新潟医療福祉大学教育開発センター（平成14年度～16年度「将来計画機構：合同カリキュラム検討部会　コア・カリキュラム検討委員会担当」）

矢谷令子

［連絡先］〒950-3198 新潟県新潟市島見町1398番地
TEL 025-257-4455
FAX 025-257-4456

3）コア・カリキュラム検討委員会
4）共通教育検討委員会

上記Ⅱ－3）コア・カリキュラム検討委員会は、各学科から1名の委員をもって構成し下記の作業に着手した。

作業1.「コア・カリキュラム」の言葉の意味の統一見解を図る。
作業2. 初回「医療福祉基礎科目群—科目数、単位数、時間数の削減的見直し（時間数210時間内）
作業3. 各学科による希望コア科目の選出
作業4. 改定科目名、科目数、単位数、時間数等の整合性の調整
作業5. 最終案確認作業
作業6. 最終案提出

注：作業1に於いては、国際基督教大学前学長絹川正吉教授及び東京都保健科学大学（現在、首都大学東京）元学長米本恭三教授を訪問し貴重なご指導を戴いた。

次に第4回コア・カリキュラム検討委員会、審議事項の一部をご紹介する。

2. 17年度改定カリキュラムとその本科目群の実践

1）新「医療福祉基礎科目群」の科目別授業概要

当委員会最終案は、合同カリキュラム部会の調整を受け以下の13科目14単位、210時間と決定された。尚、下記の科目中統計学は各学科の共通した要望により必修となったが、他は専攻学科の必修科目と勘案の上、選択できるように選択科目として1学年～2学年の対象科目となり実践に入った。

将来計画機構・合同カリキュラム検討部会
第5回コア・カリキュラム検討委員会議事要旨

日　時：平成15年4月10日（木）　午後5：00～7：00
場　所：E棟208号室
出席者：牧田（PT）、矢谷（OT）、村山（HN）、横山（SW）

Ⅰ. 報告事項：
合同カリキュラム検討部会にて「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」をコア・カリキュラム検討委員会にて検討するよう依頼があり、承諾するところとなった。

Ⅱ. 審議事項
(1) コア・カリキュラム科目の検討
① 該当科目の検討
前回の議論を踏まえて、現行の医療福祉基礎科目群の各科目を、コア・カリキュラムの新科目名のいずれに該当するか検討した。また、コア・カリキュラムの理念に合致する科目を残し、他の科目については、それらの帰属について検討を加えた。また、コア・カリ科目として、別に加えるべき科目についての検討も必要と考えた。（例:QOL関連）。
② コア科目の各科目内容
コア・カリキュラムとして選考する科目毎に、概要案の作成を分担することとした。
③ 科目概要の取りまとめ
上記②を受けて、今回の作業のまとめを表に示すこととした。（資料参照）
④ 単位数、配当年次について
・単位数の検討結果は別添資料のとおり。なお、これら単位数については、将来計画機構の各委員会の最終検討時において、再修正の必要が考えられるとした。
・各科目の配当年次については、総授業時間数など将来計画機構での議論の全体像が提示された段階で別途議論することとして現段階では検討しない（特に、基礎ゼミがコア・カリキュラムに加わったことから、基礎ゼミⅡの履修期などについて、高学年次に履修する方が良いのではないか、医療福祉チームワーク論の内容と絡めて検討すべき、といった意見があった為）。
⑤ 必修・選択について
コア・カリキュラムは「全学で共通に学ぶ科目群である」、との考えに基づき、全科目を必修とすることとした。

(2) その他
次回会合：将来計画機構の各委員会の進行状況・報告内容に応じて適宜開催する。

図1. 将来計画機構・合同カリキュラム検討部会
第5回コア・カリキュラム検討委員会議事要旨

表１．医療福祉基礎科目群

科目名	単位	科目別授業概要	時間数
統計学	2	保健医療福祉分野で共通的に必要な統計学の基礎を学習する。具体的には、統計的な考え方、基本的な統計的概念と理論、主要な統計解析法を、可能な限り演習を交えて学習する。	30
QOL 論	1	・ひとの生きがい、人生の幸福・満足感を知るために、社会の発展に貢献したモデル事例の行動を調査し、一般的な QOL を理解する。 ・広い年齢層にわたる患者、対象者の問題を認識するために、非健康関連 QOL と健康関連 QOL との相違を学習する。	15
総合ゼミ	1	本学の理念である「QOL サポーター」へ向けての自覚・役割を踏まえ、対象者中心として働き合う各職種の専門的連携（チームワーク）のあり方を中心に、混成チーム体制で学習する。	15
人間学	1	人間とは何かについて、マルチンブーマーの「我と汝」を手がかりに、人の間としての人間を考える。	15
人間理解と援助	1	援助者として、利用者や患者さんとの関わり方についてその基本姿勢を学ぶ。また、対象者を理解し援助するとは、どういうことかを学ぶ。	15
カウンセリング技法	1	対象者の心理的な相談に応ずるために、一般的なカウンセリングについて理解し、カウンセラーの基本的態度や基本的技法を習得する。	15
医療福祉と人間	1	近年とみに保健、医療及び福祉の総合政策が進んでいる。医学・医療及び保健、福祉の概念について学び、そのサービスを受ける者、実践する者の立場からも、事例的に学習する。	15
生活科学	1	人間の食べる、着る、住むといった生物学的にも社会的にも基本的な生活の営みについて、その本質や目的、構造などを科学的に学習する。生活の科学的な視点や重要性を踏まえ、これらの営みが疾病や傷害によって阻害された場合を含め、人間の生活をどのように捉えたらよいか、そのシステムについて学習する。	15
社会福祉総論	1	社会福祉についての視点と視座を明確に持つための基礎的な理念とその展開について述べる。	15
医療福祉連携論	1	医療・福祉にかかわるリハビリテーション・ワークは、チームワークで成り立つことを理解する。その論理及び実践を想定学習、見学・学習体験等を通し学習する。各学科の専門職を相互に理解し、尊敬することから対象者中心のチームワークのあり方について学習する。	15
医療福祉コミュニケーション	1	人間社会や関連環境社会に不可欠とされるコミュニケーションの原理について、自分と異なる他者や異文化への理解、受容について、主観的・客観的見地から学ぶ。身近な家族、友人から対象者へと、必要なコミュニケーション技法、指導法を含め学習する。	15
医療福祉サービス論	1	医療及び福祉についての概念を学習（医療福祉と人間）したことに続き、具体的にそれらの実践領域に焦点をあてて学習する科目である。現時点における医療及び福祉の政策下にある、両者のサービスについて、系統的に学習する。	15
保健医療福祉特論	1	保健・医療・福祉分野の専門職は広い一般教養に基づいて、その上に専門職を目指しての学習、臨床あるいは現場における実践がある。そのジェネラリストとしての教養を得るため、様々な分野における最新の知識情報を学習する。	15
合　計	14		210

２）科目概要の作成

各学科から選出された委員は上記の 13 科目中各自の専門に近い科目の概要作成を担当し、その主旨を表現した。シラバスは概要の主旨を受け担当教員によって作成されるため多少の変更も考えられるが、各科目に込められた本学の理念、学生諸氏にかけた期待が充分に伝わり、卒後に活かされることが願いとなっている。

３.「医療福祉基礎科目群」今後の課題

１）改定作業からの課題

(1)コア・カリキュラムの位置づけを持つ科目群の中で「必修」とすべき教科目の再検討

(2)各科目概説とシラバス内容の整合性のチェック

(3)各教科目実施後の学生に見る教育結果（アウトカム）調査の実施（調査基準の作成作業）

(4)全体構成の見直し検討

(5)本学の理念をふまえながら時代の要請に応える本科目群の両者関係の検討

・本学の理念は何時の世にあっても求められ強められて行く必要性と人道性を有している。時代の要請と本学の教育理念は常に発展的に研究されて行くのであろうし、本科目群はその精神を受けて引き継がれ創られていく。

２）「コア・カリキュラム」を取り巻く大学組織機能と教職員

コア・カリキュラムには全学学生が学部や専攻を違えても共通して受けとめる大学の教育理念がある。加えて教員、職員は、この主旨をよく理解し、教養教育、基礎専門教育、専門専攻教育のどの分野にあってもまた授業以外の場にあっても学生の大学生活に本学の理念、主旨の伝達は、学生への支援に反映されて行く。教員の専門科目教授に際しても大学の理念が無縁に終わるのではなく、しっかりと結びつけられその意義が

専門性の中にきらめくよう教授できることが非常に大切なこととなる。卒業生はその教えを誇りとも能力(ちから)ともして社会に巣立ち、人々に貢献するのである。そのためには、唯、教科目が揃い、理念が掲げられているのではなく、大学あげての関係する組織機能もこの教育方針を支持するシステムになっていることが不可欠となる。大学はこれらの組織機能との連携にも折々の点検が必要になる。

「理念」「教育システム」、及び「教職員の意識、実践力」の歯車が常に回ってこそ大学の精神は学生諸氏に伝承され発揮されて行くものとなる。